

平成16年度に実施する研究内容

浅海環境部

部長 三津谷 正

浅海環境部では、陸奥湾の海況と漁場環境の調査、そしてホタテガイの毒化調査などを主要な事業として、関連する調査や研究を行います。また、耐用年限が到来する海況自動観測システム（ブイロボット）の更新に向けて基本仕様の検討に着手します。

なお、観測結果については、ひきつづき各種の情報として発行するほか、当所のホームページにも掲載します。

1. 浅海定線調査

陸奥湾の水温などの現況と変化傾向の把握を目的に、試験船「なつどまり」（山田船長ほか4名乗組み）により、毎月1回、定期的に海洋観測を行います。（今井総括主任研究員ほか）

2. 漁場環境監視調査

陸奥湾の漁場環境の監視と保全のための基礎

データ収集を目的に、水質調査（月1回）と生物モニタリング調査（底質と底生生物調査、年2回）を行います。（今井総括主任研究員ほか）

3. 海況自動観測

海況自動観測システムを運用し、陸奥湾の水温、塩分、流れ、溶存酸素と洋上の気温、風を毎時連続的に観測します。この観測結果をもとに、陸奥湾海況情報などを提供します。また、観測結果を解析し海況予報技術研究を進めます。（大水技師ほか）

4. 貝毒発生監視調査

本県沿岸域の二枚貝（ホタテガイやムラサキイガイなど）の下痢性貝毒とまひ性貝毒による毒化状況や、毒化原因プランクトンの出現動向を調査します。合わせて、ホタテガイの対EU輸出の条件となる生産海域モニタリングも行います。

また、貝毒の最新の機器分析法を用いた新たなモニタリング手法の開発試験を進めます。（高坂技師ほか）

ほたて貝部

部長 小坂 善信

昨年度は陸奥湾のホタテガイ養殖にとって大変な年となりましたが、今年度のほたて貝部は昨年度と同様なメンバーでホタテガイ増養殖の諸問題に取り組むことになりましたので、昨年同様よろしく申し上げます。

本年度の主な事業は次のとおりです。

1. ホタテガイ増養殖IT推進事業

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等、ホタテガイ増養殖の安定と効率化のための試験・調査を実施し、各種情報を提供します。（篠原技師ほか）

2. ホタテガイ卵質評価試験

天然採苗予報の精度向上のために、ホタテガイ卵巣卵の成熟度の簡易評価法手法について開発しています。（篠原技師ほか）

3. 新耳吊り養殖技術開発試験

これまでの養殖方法を見直し、生産効率が高く、経費の削減を図るための新しい耳吊り養殖方法を開発しています。（小坂部長ほか）

4. 海面養殖高度化推進対策事業

養殖付着物（特にコウレイボヤ）の付着回避・防御技術の開発を行います。（吉田総括主任研究員ほか）

5. 地まきホタテガイ漁場回復調査

地まきホタテガイの外敵であるニッポンヒトデの生態を研究し、効率的な駆除方法を構築します。（吉田総括主任研究員ほか）

6. 漁場環境保全方針策定事業

昨年度のへい死原因を調べるほかに、地まきホタテガイ漁業の回復を図るため、各種調査を行い、漁場環境保全方針を策定します。（吉田総括主任研究員ほか）

7. ホタテガイ活貝供給促進事業

ホタテガイ活貝の供給促進を図るために、活貝品質向上技術を開発します。（吉田総括主任研究員ほか）

魚 類 部

部 長 工 藤 敏 博

4月の人事異動で内水面研究所へ栄転された塩垣前部長に代わり、むつ水産事務所から魚類部長として着任しました。

また、水産振興課へ転出された松坂総括主任研究員に代わり、菊谷総括主任研究員が水産総合研究センターから転入し、階上町駐在となった山田主任研究員に代わり、小笠原主事と横山技師が着任しました。

留任の川村技能技師を加えた5名で業務を行いますのでよろしくお願い致します。

本年度の主な事業と担当は次のとおりです。

1. うすめばる量産技術開発試験

うすめばる資源の回復の一方策として栽培漁業化の可能性を探るため、種苗生産技術の開発を行います。(菊谷総括主任研究員ほか)

2. 放流関連技術開発事業(まだら)

まだらの栽培漁業化を図るため、良質種苗の安定的量産と適正な放流技術を確立します。(菊谷総括主任研究員ほか)

3. 放流関連技術開発事業(まこがれい)

第4次栽培漁業基本計画で栽培漁業対象種に選定されたマコガレイについて、種苗生産及び放流技術の開発に取り組みます。(工藤部長ほか)

4. まだら幼魚の飼育試験

東北区水産研究所八戸支所の委託を受けて実施するもので、まだら当歳魚について摂餌量、水温、成長の関係を調べ、餌料環境及び物理環境とまだらの成長の関係を明らかにします。(菊谷総括主任研究員ほか)

5. 海産魚類防疫対策事業

海産魚類の増養殖時における魚病蔓延を適切に防止し、被害を最小限に止めるための指導・検査等を行います。(菊谷総括主任研究員ほか)

磯根資源部

部 長 桐 原 慎 二

平成16年度には、仲村総括研究管理員、木村主幹、長根主任研究員、佐藤技師、佐々木・工藤非常勤労務員とともに、各海域で採介藻漁業の発展に役立つ以下の試験研究を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

1. 日本海沿岸の藻場造成と

磯根資源維持管理技術の開発

ハタハタの産卵場、モズク、エゴノリの着生基質、サザエの餌料、メバル類稚魚の育成場として、日本海沿岸での漁業生産上重要な役割を果たしているホンダワラ類藻場について拡大、保全する技術を開発します。(関連事業：日本海多機能藻場造成技術開発調査、ほんだわら類増殖技術開発試験、日本海藻場調査、環境に配慮した海藻類漁具漁法の開発試験、多機能静穏域関連調査)

2. 陸奥湾沿岸の藻場造成と

磯根資源維持管理技術の開発

アイナメの産卵場、カレイ、メバル、カニ類の育成場、ナマコ、ウニの餌料、ヒラメ漁場として漁業生産の上重要な役割をもち、また、水

質、底質浄化機能を通して市民生活にも不可欠な役割を果たしている陸奥湾沿岸のアマモ類(海草)藻場を造成する技術を開発します。(関連事業：海辺の海草藻場再生推進事業、川内ナマコ増殖場調査)

3. 津軽海峡－太平洋沿岸の

磯根資源維持管理技術の開発

コンブ漁場、アワビ、ウニの餌料として、津軽海峡－太平洋沿岸で重要なコンブ藻場について、効率的な「磯焼け」回復技術を開発するとともに、渚域を含む漁場での磯根資源の状態を把握し、適切な資源・漁場管理手法を検討、指導いたします。(関連事業：渚の環境実態調査、海の森回復技術開発試験、尻屋磯根資源調査、環境に配慮したウニ漁具漁法の開発試験)

4. 海藻類の採苗、養殖技術の開発と指導

美味なのに生育量が少ないため漁獲販売されない海藻種について人工採苗、養殖技術を開発します。また、養殖漁業生産が少ない日本海沿岸で、海藻養殖企業化試験の技術指導を行います。(関連事業：地域特産海藻養殖技術開発試験、日本海拠点海藻養殖等推進事業)